KOMAZAWA UNIV. VS JEF UNITED ICHIHARA CHIBA

打ち砕かれた自信…

あらゆる面で差をみせつけられる

①この日１ゴールを決めた赤嶺。Ｊの舞台で経験しているだけに、ジェフのプレスにも対応した動きを見せていた②プロを相手にもフィジカルでは引けを取らなかった巻（佑樹）③ワールドクラスの技術を見せたハース。駒大の FW 陣にはぜひともお手本としてもらいたい④85 分、最上との連携でゴールを決めた東平。千葉 DF を相手にも得意のドリブルで輝いきを放っていた⑤強靭な身体を武器に駒大ゴールに迫った巻（誠一郎）。駒大の課題として「中盤でタメが作れるようになるといい」と試合後に語った⑥得意のドリブルで攻撃を仕掛けようとする原

「相手が繋ぐサッカーをするのだから、連動して動かないと上手く守れない」と試合後、**岡田コーチ**はこのように漏らした。この日は序盤から速いボール回しでリズムを作る千葉がペースを握っていた。ワンタッチ・ツータッチでボールを回す千葉に対し、駒大のディフェンス陣はそのパススピードと後ろから飛び出してくる選手の連動に翻弄され、フィニッシュまで持ち込まれる展開が続いた。前線からの速いプレスが売りの駒大にとって、大学サッカーには無いスピードを持った相手には普段やっていることだけでは通用しなかった。しかし、駒大サッカーの全てが通用しなかったというわけでもない。駒大のプレスに対し**佐藤**は「ドリブルをすると囲まれるので簡単にやるようにした」と評価した。やはり、駒大の持ち味はであるプレスは十分に機能していたのである。だが、駒大がさらにレベルを上げるためには、試合中の「前線で追い込んだら連動して動け！」と**秋田監督**が飛ばした檄の中に集約されている。既述のとおり千葉はプレスに行く駒大に対し、速いパス回しでそのプレスを逃れていた。しかし、駒大のプレスが単発で終わってしまうためにそのまま前線までボールを運ばれ、ピンチを招いてしまう。そうならないためには一人の選手がプレスを掛けると同時に他の選手がパスコースを塞いだり、苦し紛れにドリブルをしてきたときに複数の人数で囲んで奪うということが必要となってくる。

一方、攻撃面でも学ぶべきところが多く見られた。３年前までは駒大でプレーし、駒大サッカーを知る**巻誠一郎**は「ロングボールからの速い攻撃は魅力的だが、中盤でもっとタメを作れる選手がいるともっとよくなる。例えば**中後**（現鹿島）みたいなのがいると」と語った。確かに、自陣のゴール前に近い位置でボールを奪うことが多かったために、カウンター攻撃が目立った。しかし、中盤で奪ったときも前線に放り込み**赤嶺**、又は**巻**に競らせたこぼれ球を拾い、フィニッシュまで行くという展開は千葉の堅い守りには難しかった。やはりリズムを変え、千葉のような速いパス回しで攻撃を組み立てられるようになれば、プロを相手にも引きをとらないチームが完成するだろう。

この日の戦いを駒大の選手たちは「判断、プレーのスピードにおいて全てが違う」（**桑原**）。「動きの速い相手に対し、もっと後ろから連動していかないと。ボールを持ったときにはもっと余裕を持たなければならない」（**筑城**）と自身たちも課題を明白にし、理解している。

このレベルの差を見せ付けられ、リーグ戦を首位で折り返したことも忘れさせられたであろう。これからも続く長いシーズンの中でどこまで改良できるのか。駒大サッカーをより進化させることができるのか。大学サッカーの頂点を目指すためにも、可能な限り、自分たちのモノにしていってもらいたい。

（川崎　篤彦）

2005/06/23 千葉海浜公園陸上球技場

◆1試合目
駒澤大学１－１ジェフ千葉

【得点】
[駒]赤嶺

●**駒澤大学**/ＧＫ牧野利昭/ＤＦ阿部琢久哉、廣井友信、桑原　靖、筑城和人/ＭＦ菊地光将(→70 分塚本泰史)、宮崎大志郎、鈴木亮平(→26 分田谷高浩→32 分最上大輝)/ＦＷ赤嶺真吾、原　一樹(→89 分高崎寛之)、巻　佑樹

◆２試合目
駒澤大学２－７ジェフ千葉

【得点】
[駒]榊原、東平

●**駒澤大学**/ＧＫ山内達夫(→85 分岡部良行)/ＤＦ安藤　謙(→85 分高崎寛之)、五上直人、小椋慶一、石井浩一/ＭＦ柳崎祥兵、塚本泰史(→70 分最上大輝)、榊原浩一郎、赤尾直和/ＦＷ山下真太郎、東平大佑